

建築概要

数物連携宇宙研究機構棟

デザイン総括

大野秀敏

設計

東京大学本部(施設・資産系)、
クハラ・アーキテクト、
(株)渡辺佐文建築設計事務所、
(株)青島裕之建築設計室、

屋上ライトアップデザイン

(株)I.C.O.N. 石井リーサ明里

施工 建築

佐藤・浅川特定建設工事共同企業体

空調給排水衛生

三機工業(株)

電気

小峯電業(株)

エレベーター

三菱電機(株)

竣工日

平成21年12月22日

構造・階数

地上6階建

建築面積

1,589㎡

最高高さ

26.4m

延床面積

5,974㎡



写真: 北嶋俊治



IPMU INSTITUTE FOR THE PHYSICS AND
MATHEMATICS OF THE UNIVERSE

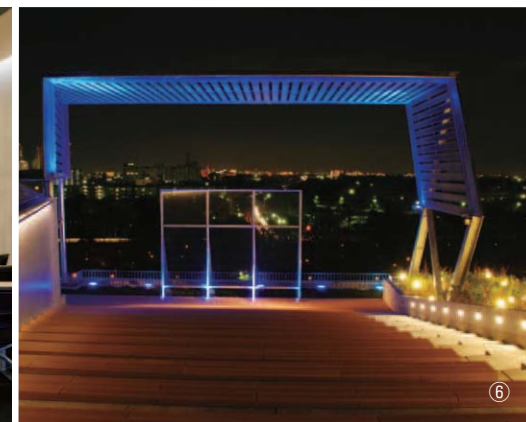
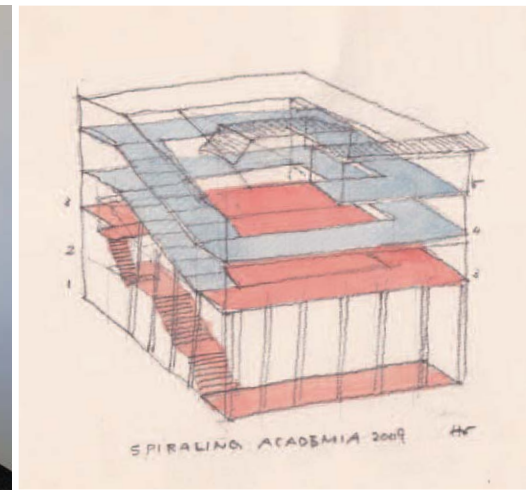
東京大学数物連携宇宙研究機構(IPMU)
〒277-8583 千葉県柏市柏の葉5-1-5

設計コンセプト

東京大学数物連携宇宙研究機構(IPMU)の研究棟は、周辺の緑豊かな環境とキャンパスの景観にとけ込む建物を目指して設計されました。TX柏の葉キャンパス駅から、櫛並木に縁取られた目抜き通りを東京大学に向かうと、巨大な鉄製のパーゴラがキャンパスの緑越しに道路の真正面に現れます。この研究棟は、外部に向けて柏キャンパスの顔となる景観の一つを形成しているのです。

建物内部には、「大学は対話を基礎とするアカデミアであるべき」との理想を基に「研究個室に囲まれた中心に広場があり、そこに研究者が集い、いつでも学問的な意見の交換ができる場所」を実現するため、1階と2階に研究支援機能を納め、その上部に「都市広場」というべき交流スペースを中心として77室の研究個室が螺旋状に3周巡らされています。交流スペースの中央には、ガリレオ・ガリレイの言葉でありIPMUの研究の基本概念である「L'universo é scritto in lingua matematica (宇宙は数学の言葉によって書かれている)」という古いイタリア語が記された柱(「オベリスク」)が立っています。また、「都市広場」に向かって、様々な議論の場が立体的に配置され、学术交流の場として研究の熱気を凝縮する仕組みが形成されています。さらに、螺旋を登り切って屋上に出ると、そこには「野外劇場」があり、季節の良い時期には研究集会の場として印象的な演出を可能にしてくれます。

この研究棟を舞台として、IPMUの研究者それぞれがアカデミアの一員であることを深く理解することでしょう。



建物写真

写真: 北嶋俊治 ①②③④⑤⑦
I.C.O.N. 石井リーサ明理 ⑥
イラスト: 大野秀敏

